江戸時代初期の旗本陣屋の様相

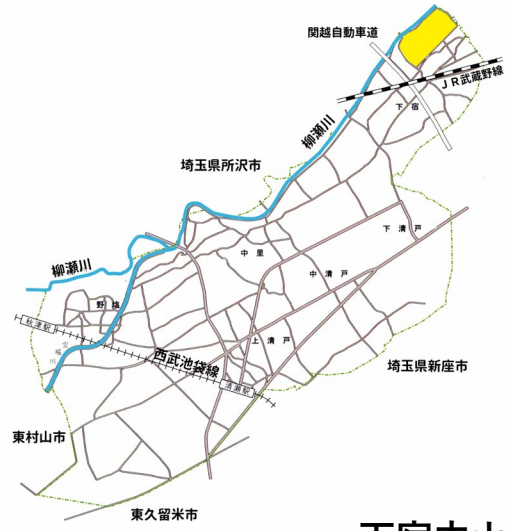
中野光将（清瀬市郷土博物館）

はじめに

下宿内山遺跡は、現在の清瀬市下宿3 丁目に所在している清瀬水再生センター建設に伴い、昭和51年（1976）～昭和57 年（1982）にかけて、約21 万㎡におよぶ広大な敷地の発掘調査によって姿をあらわした遺跡です。

この遺跡からは、現在でも発掘事例の少ない江戸時代初期の旗本陣屋が確認されました。

本講演では、下宿内山遺跡で確認された旗本陣屋を中心に発掘された旗本陣屋の様相を紹介していきます。



下宿内山遺跡位置図・全景写真

1.江戸時代初期の旗本陣屋とは？

徳川家康は天正 18 年（1590）に関東に移封された際、１万石以上の家臣を領内の各支城に、それ以外の江戸周辺部には、代官や旗本を各所に配置しました。特に、100 石以上 300 石未満の旗本の多くが、江戸周辺に知行地を与えられ、各地に居住のための陣屋を構え、統治を行っていたとされています。これらを旗本陣屋と呼んでいます。

この旗本陣屋は、寛永 2 年（1625）頃の江戸市中における屋敷割の決定により、旗本が江戸市中に移住する頃まで各地域に存在していたと言われていますが、中にはそれ以降も居住した旗本も存在しています。

【落穂集】

御旗本ニ於て小身成面々ニハ、江戸近ニて知行を割渡、少も知行高を取者程、道法遠き所ニて知行を割渡可申、但し道中一ト泊より程遠所ニて知行所を割渡候ハ、無用ト致候

知行所ニ於て、何れも軽く陣屋を構へ、其処へ直ニ妻子等をも引越、江戸御城番の義、知行所より通ひ勤ニ仕候

【東久留米市史　資料編】

じん屋敷ハ御ざ之間ハたつ五間半・よこ二間半、代官長右衛門殿御ざ之間ハ四間半・よこ三間半蔵三間・横二間半

南沢村へも歩人足御用之由

各地域の旗本陣屋が置かれていた場所は、地誌・地籍図、あるいは『新編武蔵風土記』の中で紹介されていることが多く、特定が出来ている自治体がある一方、構造については未だに解っていません。現在、文献上で解りえる旗本陣屋における特徴は以下の通りになると考えられます。

①一夜泊りで江戸にかよえる地域に旗本が居を構える

②江戸での勤務がある場合は、陣屋から出勤する。

③南沢村の旗本の屋敷の寸法から考えると、主屋は縦１１ｍ、横５．５ｍ程度以上の建物の可能性が考えられる。

④勤務や軍陣の際には、農民が動員される。

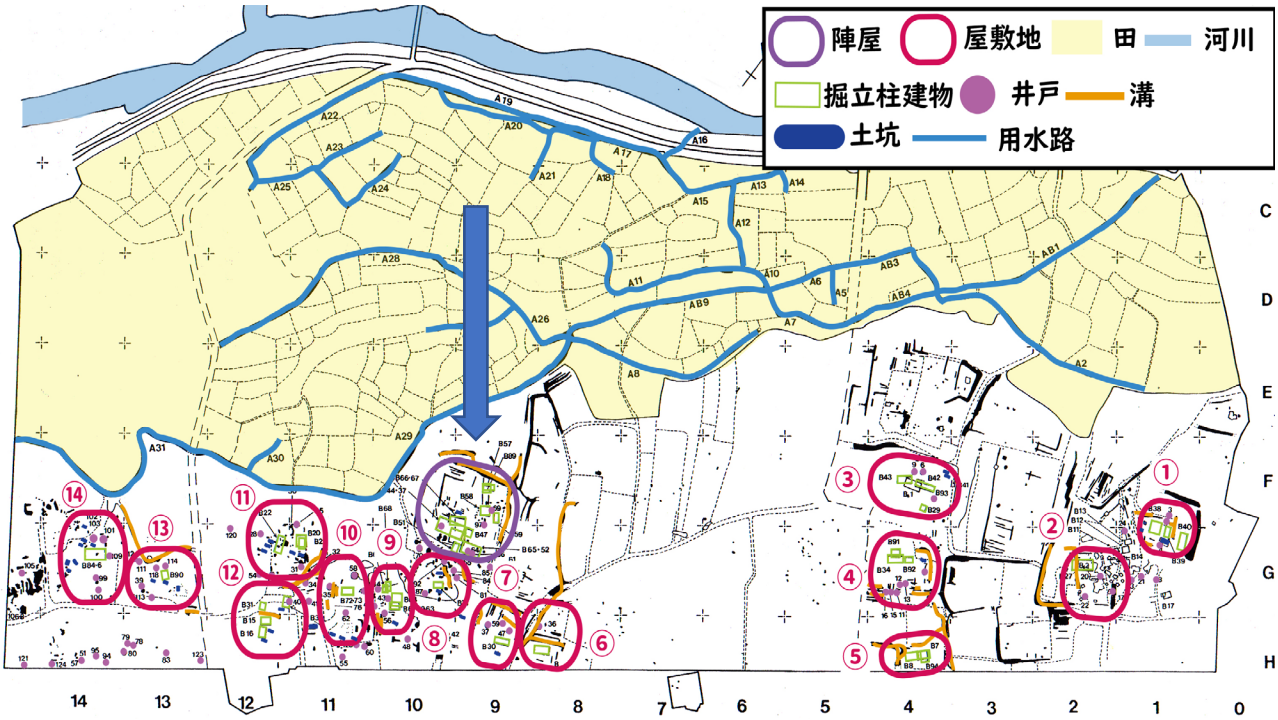
⑤年貢などは、知行地から取得し生活していた。

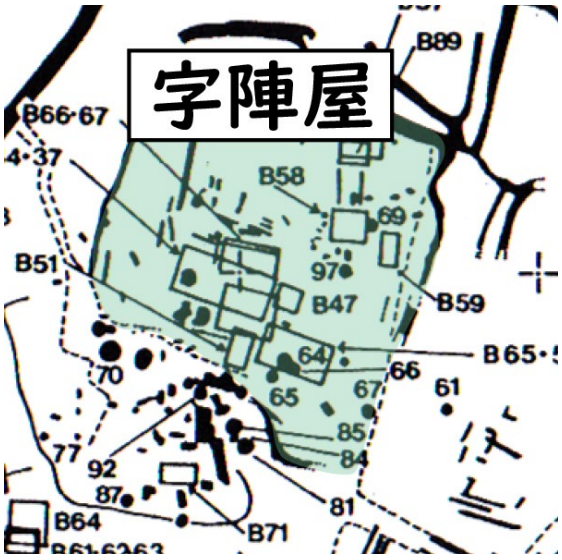
⑥多くの旗本陣屋は17世紀半ばには廃絶し、江戸市中に屋敷を構えることになった。

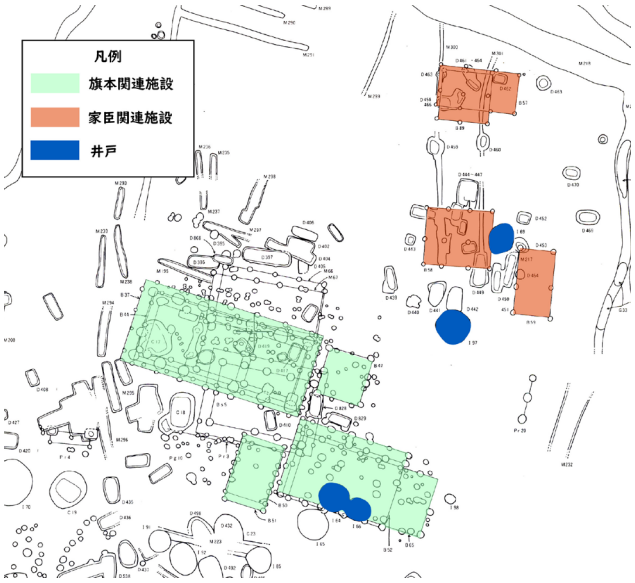
2.下宿内山遺跡の旗本陣屋とは？

　下宿内山遺跡内には、昔から「陣屋」と呼ばれている場所が存在しており、その場所から江戸時代初期の大型堀立柱建物・井戸などが見つかっています。これらの建物は、文献や字名などから、天正19年（1591）～寛永11年（1634）頃まで、この地を統治していた現在の静岡県出身の太田清政と助重父子によって築造された陣屋に伴う可能性が考えられています。

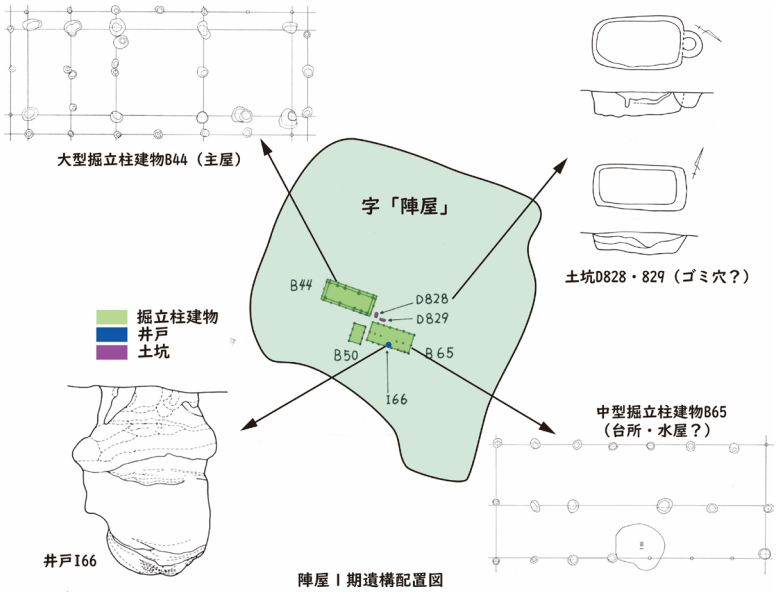
太田清政は小田原攻めにも参加し、子の助重は大阪夏・冬の陣に参加しています。







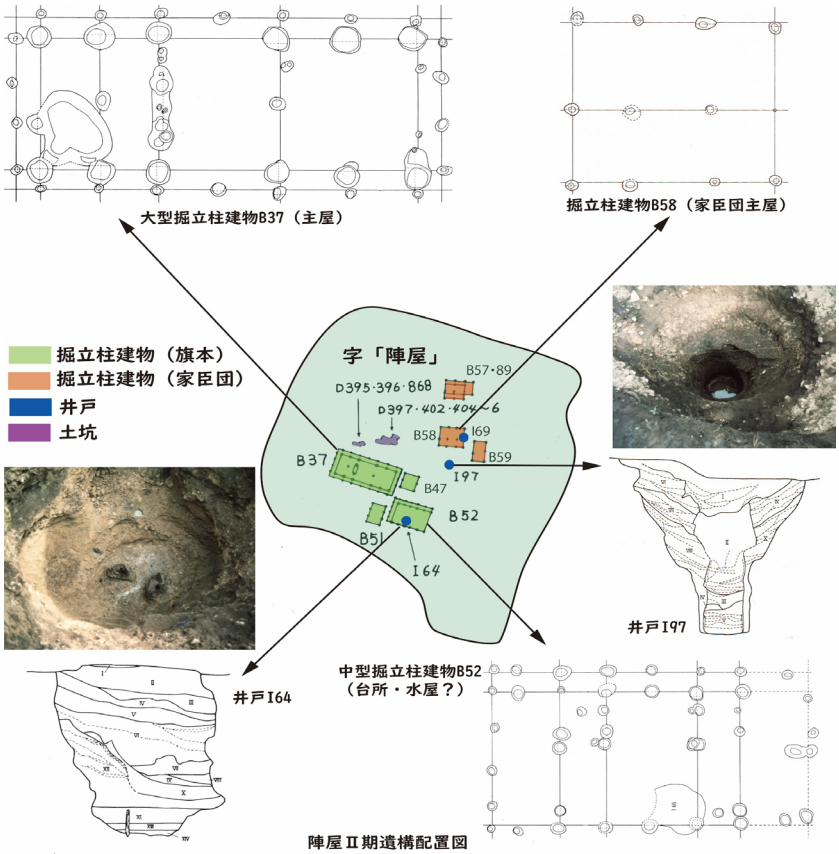
下宿内山遺跡内の旗本陣屋は、堀・土塁などはなく、堀立柱建物や井戸のみでしたが、親・子時代の屋敷変遷を追うことができます。天目茶碗などは子の時代の屋敷地から出土しています。また、周辺から旗本陣屋よりもやや古い時代の井戸などが見つかっていることから、何らかの施設を再利用して陣屋を作った可能性が指摘されます。

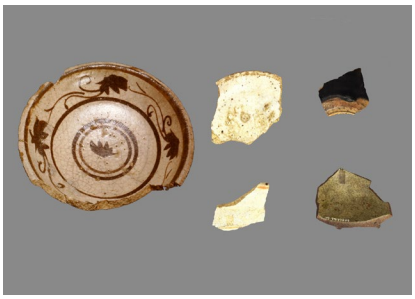


陣屋Ⅰ期遺構配置図

（「幕藩体制下の初期旗本陣屋について」「発掘調査からみる江戸時代初期の旗本陣屋 」を基に作成）

父・太田清政時代（1591～1618）





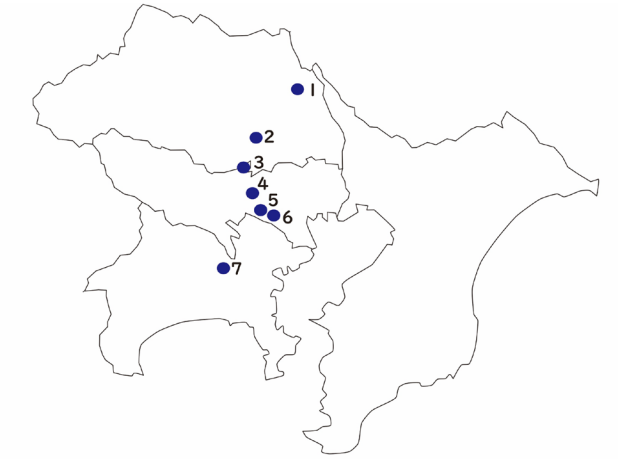
陣屋Ⅱ期遺構配置図

（「幕藩体制下の初期旗本陣屋について」「発掘調査からみる江戸時代初期の旗本陣屋 」を基に作成）

子・太田助重時代（1619～1634）

3. 代表的な旗本陣屋の発掘成果

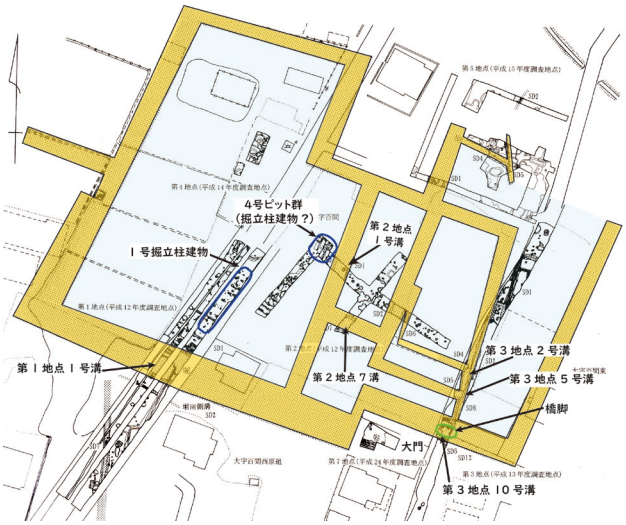
旗本陣屋の具体的な構造を知る上で重要なものとして発掘調査によって解った旗本陣屋があげられます。しかし、現在の所、発掘調査で知りえる限りでは、10例程度になります。ここでは、簡単に下宿内山遺跡以外の代表的な旗本陣屋の事例を簡単に紹介していきます。



No.	遺跡名	所在地	拝領者	陣屋存続期間
1	伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡	埼玉県宮代町字西原	服部与十郎政季・権太夫政信	天正19年（1591）～元和5年（1619）
2	宿（多門氏館跡）遺跡	埼玉県富士見市諏訪	多門成正・正勝・正景	天正19年（1591）～元禄10年（1697）
3	下宿内山遺跡	東京都清瀬市下宿	太田清政・助重	天正19年（1591）～寛永11年（1634）
4	島屋敷遺跡	東京都三鷹市新川	柴田勝重・勝輿・勝門	慶長19年（1614）～元禄11年（1698）
5	田中・寺前遺跡	東京都狛江市元和泉・東和泉	石谷清定・清政	天正19年（1591）～寛永2年（1625）
6	喜多見陣屋遺跡	東京都世田谷区喜多見	喜多見氏	17世紀初頭～元禄2年（1689）
7	神明若宮地区内遺跡	神奈川県大和市福田	川井久吉	慶長5年（1600）～寛永2年（1625）？

これ以外にも
※赤塚陣屋（埼玉県川口市）
　大平遺跡（埼玉県桶川市）があります。

伝承服部旗本陣屋跡遺跡（埼玉県宮代町）



特徴

・在地領主の屋敷再利用

・土塁、大溝で区画

・橋脚、虎口の存在

宿（多門氏）遺跡（埼玉県富士見市）

特徴

在地領主の屋敷再利用

・土塁、大溝で区画

・大型掘立柱建物の存在

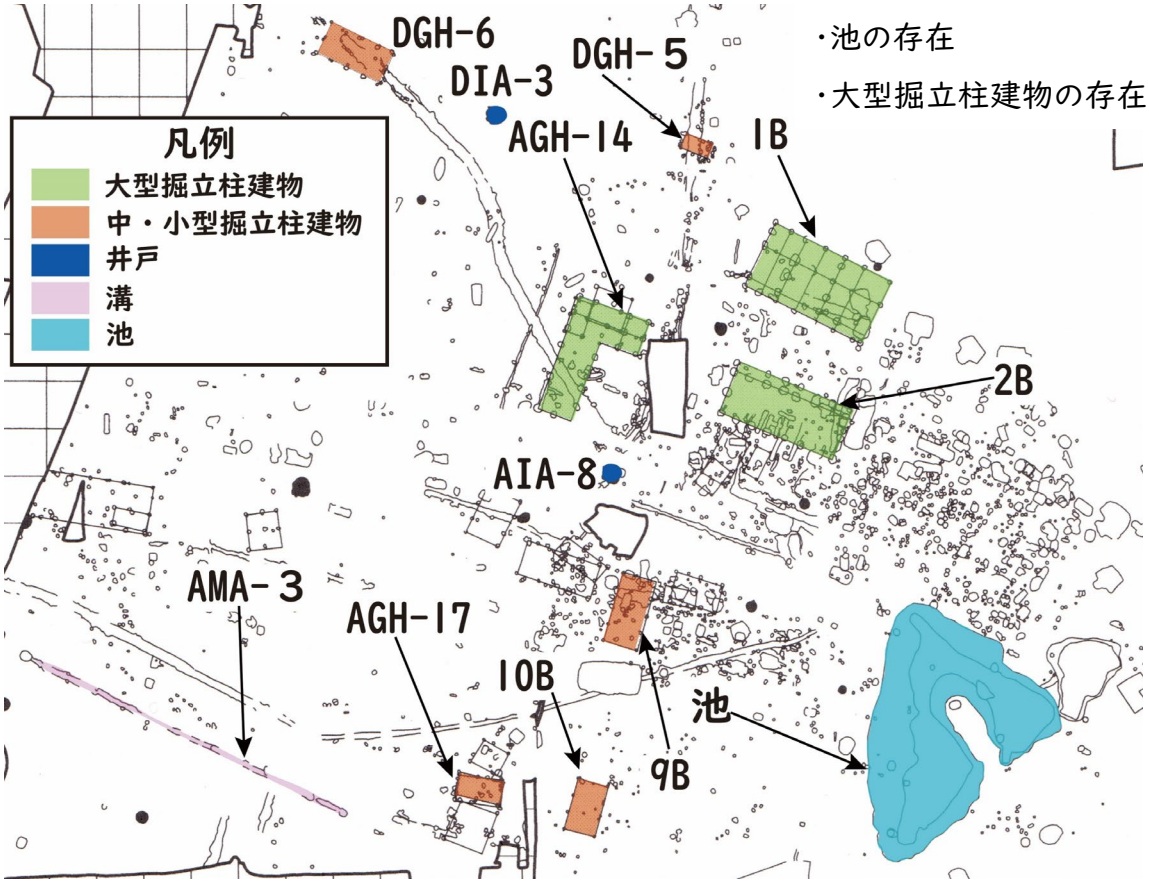
島屋敷遺跡（旗本柴田氏陣屋）
（東京都三鷹市）

特徴

・陣屋以前の土地再利用

・池の存在

・大型掘立柱建物の存在

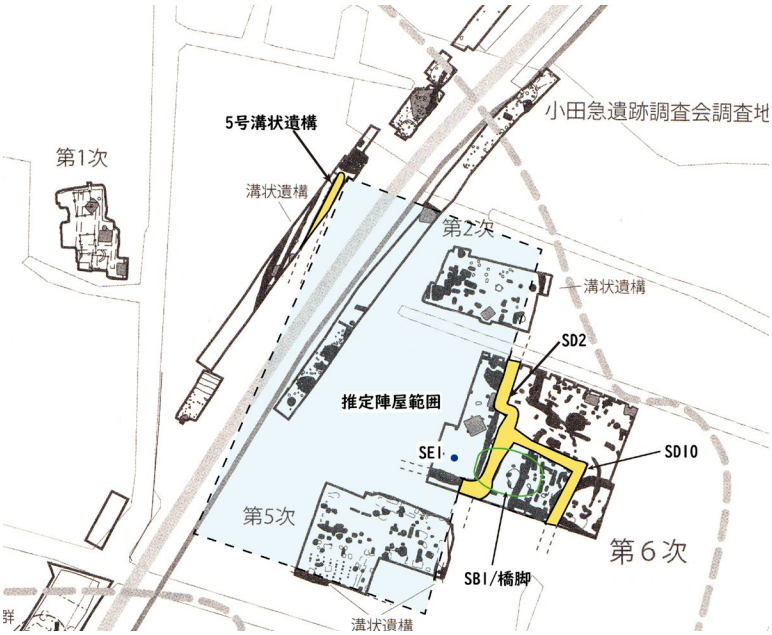


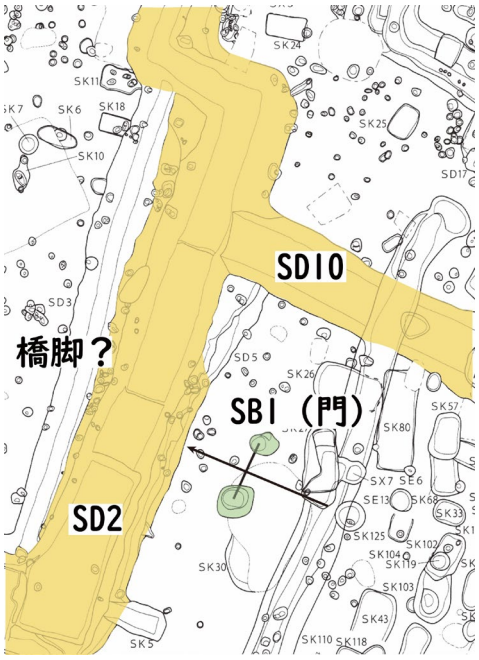
田中・寺前遺跡（旗本石谷氏陣屋）
（東京都狛江市）

特徴

在地領主の屋敷再利用

・大溝（堀）、橋脚、虎口の存在





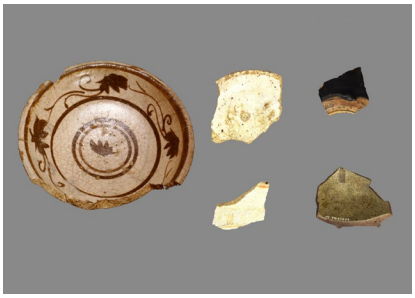
4. 旗本陣屋の発掘成果から見た特徴

旗本陣屋の発掘調査によって解った共通点と違う点が存在しています。ここでは、それぞれの特徴を紹介し、発掘した旗本陣屋の様相について考えてみたいと思います。

◎発掘された旗本陣屋の共通点

①陣屋が作られる前の屋敷や土地を利用

②出土遺物の少なさ



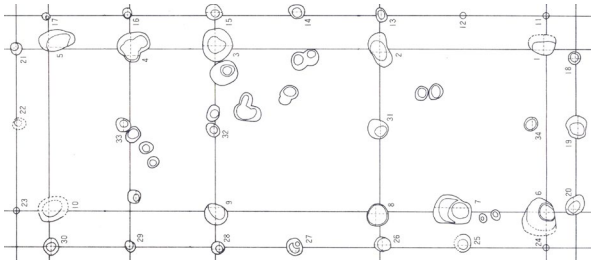
下宿内山遺跡出土遺物

③大型堀立柱建物の存在

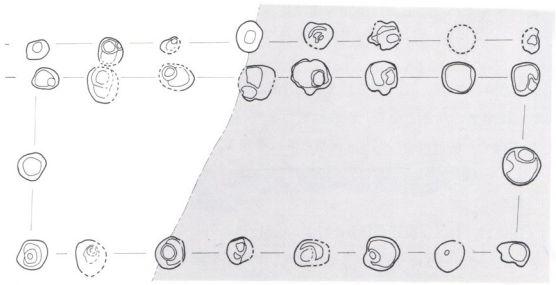
・伝承服部屋敷跡遺跡19m×7m

・下宿内山遺跡11.83m～16.6m×5.7～7.2m

・島屋敷遺跡12.5～13.4m×5.5～7.2m

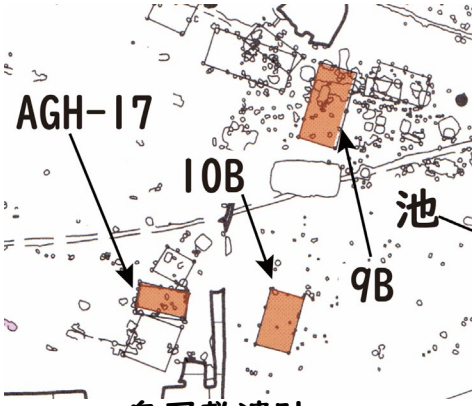


下宿内山遺跡

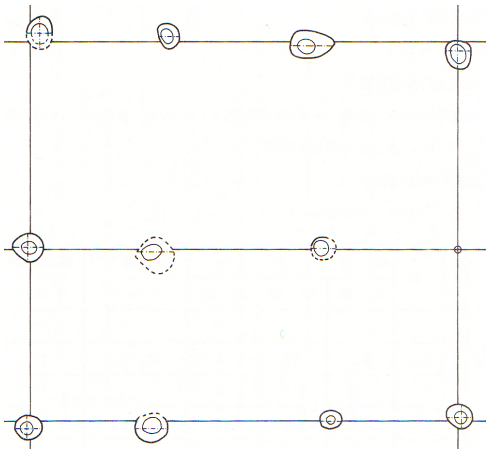


島屋敷遺跡

④中小規模の掘立柱建物



島屋敷遺跡



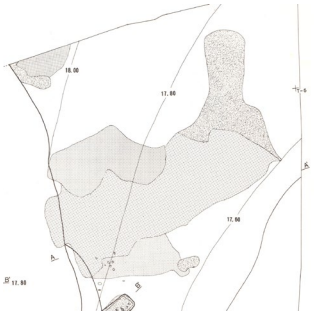
下宿内山遺跡

◎発掘された旗本陣屋の違う点

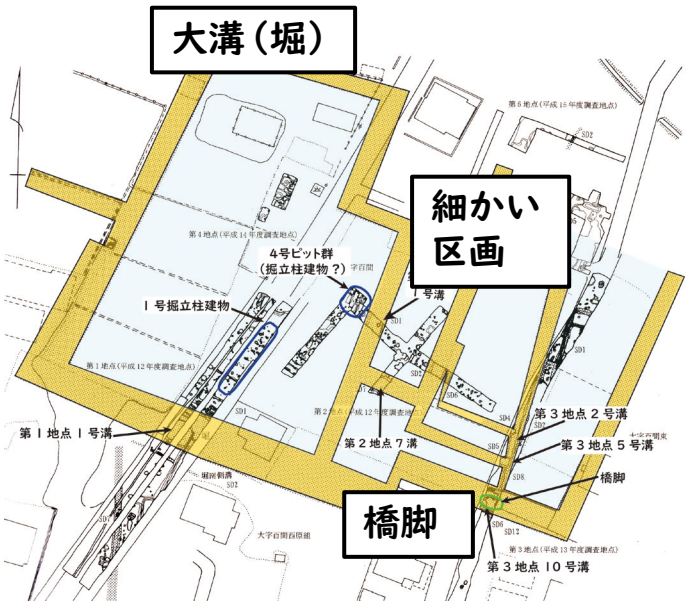
① 外側に土塁・堀（大溝）の存在

② 虎口・橋脚・門、内部の
細かい区画の存在

③ 庭園構造の存在



旗本喜多見氏陣屋（池）



◎発掘から見えた旗本陣屋の様相

① 大型掘立柱建物の存在

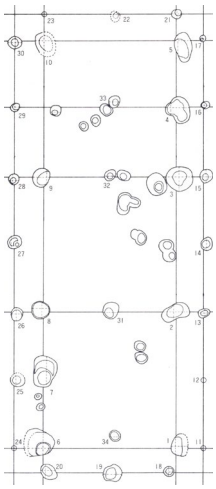
旗本の主屋にはある程度の規則性がある。

② 堀・土塁、あるいは虎口の存在

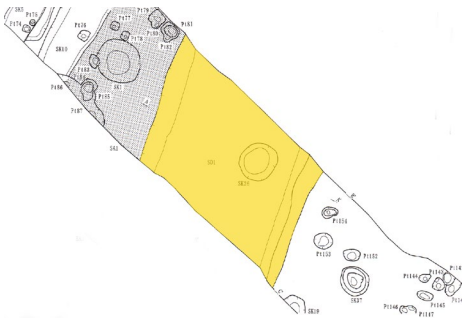
城郭とはいかないまでも、それに通ずる防御施設の建築。

③ 陣屋を作る以前の土地（屋敷）を利用

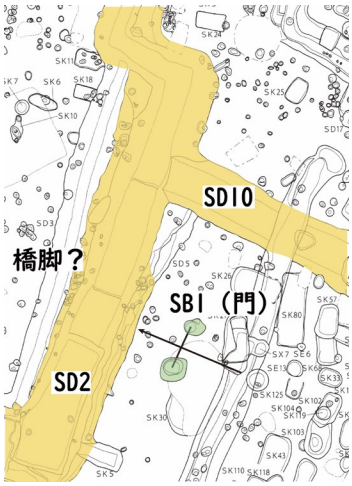
時間がない中での家康が行った家臣団配置の様子が伺える。



旗本太田氏主屋
掘立柱建物



旗本服部氏陣屋
大溝（堀）



旗本石谷氏陣屋
大溝（堀）・虎口

おわりに

江戸時代初期の旗本陣屋は、発掘調査の成果からみていくと、主屋などの建物に共通性がありますが、防御施設の有無から、幕藩体制のまだ確立していなかった江戸時代初期の不安定な地域情勢をふまえた上で、旗本が陣屋を築造したこと可能性が考えられます。その中で、下宿内山遺跡の陣屋跡は、数少ない発掘事例として再評価をするべきと考えられます。